

Patina Osaka

「パティナーナ大阪」のための
アートワークが完成。

2025/6

© Interculture Art Inc.
All Rights Reserved.

Photo © Forward Stroke inc.



Photo © Forward Stroke inc.

OVERVIEW

カペラホテルグループ日本初進出ホテルとなる「パティナー大阪」。今年5月に開業したこのホテルは、難波宮（なにわのみや）跡と大阪城の隣接する「土地の記憶」からインスピレーションを受け、歴史的遺産に敬意を表して誕生したラグジュアリー・ホテルです。木、水、石、銅など、異なる素材を用いて、フロアごとに「土地の記憶」を引き出すインテリアデザインと協調しながら、全館を彩るアートは、「個（エネルギー・力・永続性）」「見立て（日本的抽象と再解釈）」「地産（地元素材と職人技）」という3つの基本理念を軸に、構成されています。伝統的な焼き物や千年の歴史を持つ和紙が、大阪の豊かな文化遺産を受け継ぎ、リサイクル素材を活用した作品群が空間を彩り、持続可能な未来への架け橋となる体験を訪れる人々に提供します。



1F Signature Restaurant [P72]

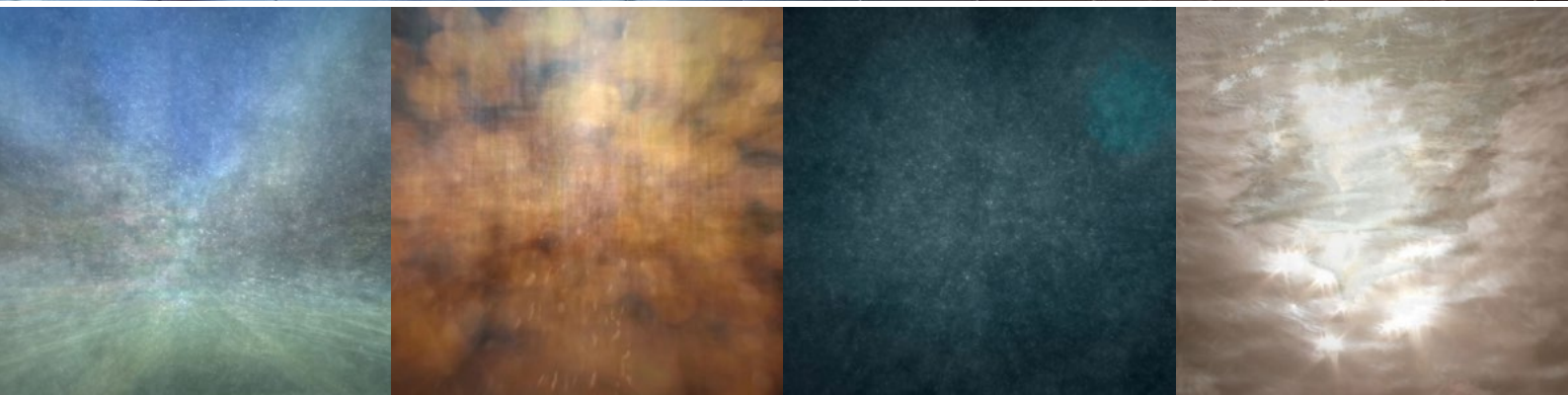
シグネチャー・レストラン「P72」では、日本の伝統的な「七十二候」に着想を得て、繊細な自然の季節の移ろいが表現されています。この空間の天井に浮遊するアートは、難波宮の地中を想起させる「木の根」をモチーフに、大阪の突板工場から出た廃材をマテリアルとして、最先端のプログラミング技術と地元職人による手作業のわざを融合させて作りだした、記念碑的なスカルプチャーです。三次元空間にうねり浮遊する有機的な造形によって、「都市の中に溶け込み調和した自然世界」へと、ゲストを誘います。



1F Vestibule

エントランスの風除室に設置された「廃船花器」は、「水都・大阪の記憶」をテーマに、船の解体材を花器に見立てて再活用した作品です。丁寧に磨き上げられた鉄は、そこに活けられる花々や周囲の空間と、ドラマチックなコントラストを生み出します。「PATINA」ブランドが誇るサステイナブルな理念、大阪の歴史、そして四季の移ろいを融合させた、特別なウェルカム・アートとなりました。





1F Corridor

「4 Seasons」と名づけられた牧野貴(まきの・たかし)による映像作品は、道頓堀川の揺らぎや大阪城公園の木漏れ日など、大阪の四季折々の光を捕らえた映像作品です。「都市と自然の融合」を万華鏡のように表現し、朝の微光から昼の活気、夜の静寂へと移り変わる一日のリズムに合わせ、都市に宿る森羅万象の美しさを映しています。



20F Reception [SONATA BAR & LOUNGE]

20 階スカイ・ロビー「SONATA BAR & LOUNGE」では、大阪の土地と歴史を表現する審美的なアート空間が広がります。ハタノ・ワタルによる壁面レリーフは、パティエーナ大阪の敷地から採取した土、こんにゃくや柿の抽出物などの自然素材のみで制作され、窓から見える大阪城の姿と呼应しながら、水平線を描くように、古（いにしえ）の難波宮の時代から現代に至るまでの「日出づる」国の記憶を表現しています。





大阪の陶芸家・八田亨（はった・とおる）による花器は、釉薬と灰が生み出す偶発的な表情から「不完全な美」を体現し、橋本知成（はしもと・ともなり）の彫刻作品は、「土」そのものをアートとして提示することで、モニュメンタルな存在感を放ちます。

20F Lounge [SONATA BAR & LOUNGE]

SANSUI, TRIO (KENWOOD), PIONEER, ONKYO, DENON……。近代以降の日本を代表する音響機器メーカーのヴィンテージ製品を集めたアート・ウォール。使用した最古のモデルは1965年製まで遡ります。「アップサイクルの美学」を力強く体现し、空間に重厚な響きを与えています。



3Dモデル化された大阪城のしゃちほこをCTスキャンのように層状に切断した作品も展示。伝統と革新が交差する、現代の大阪の精神を表現しています。





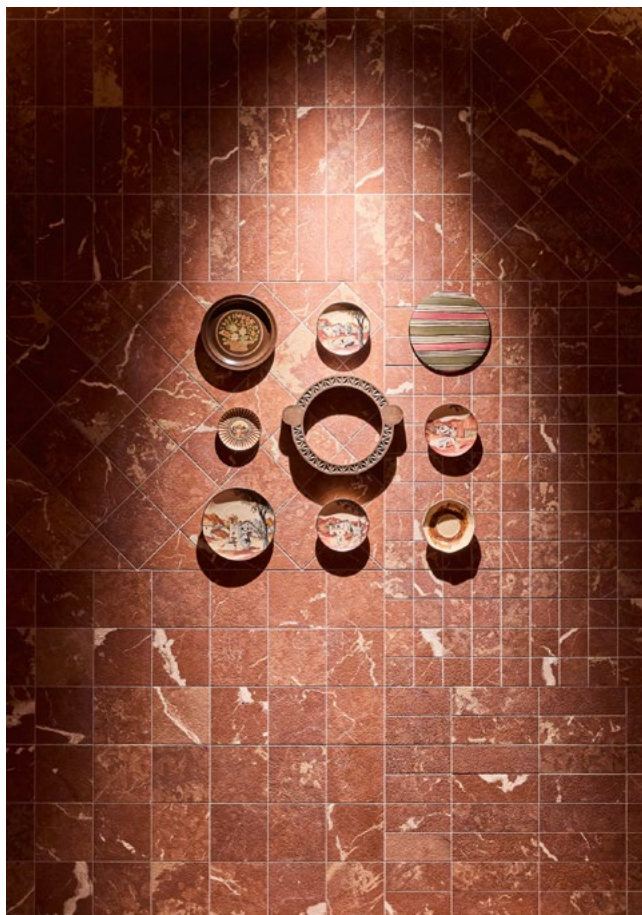
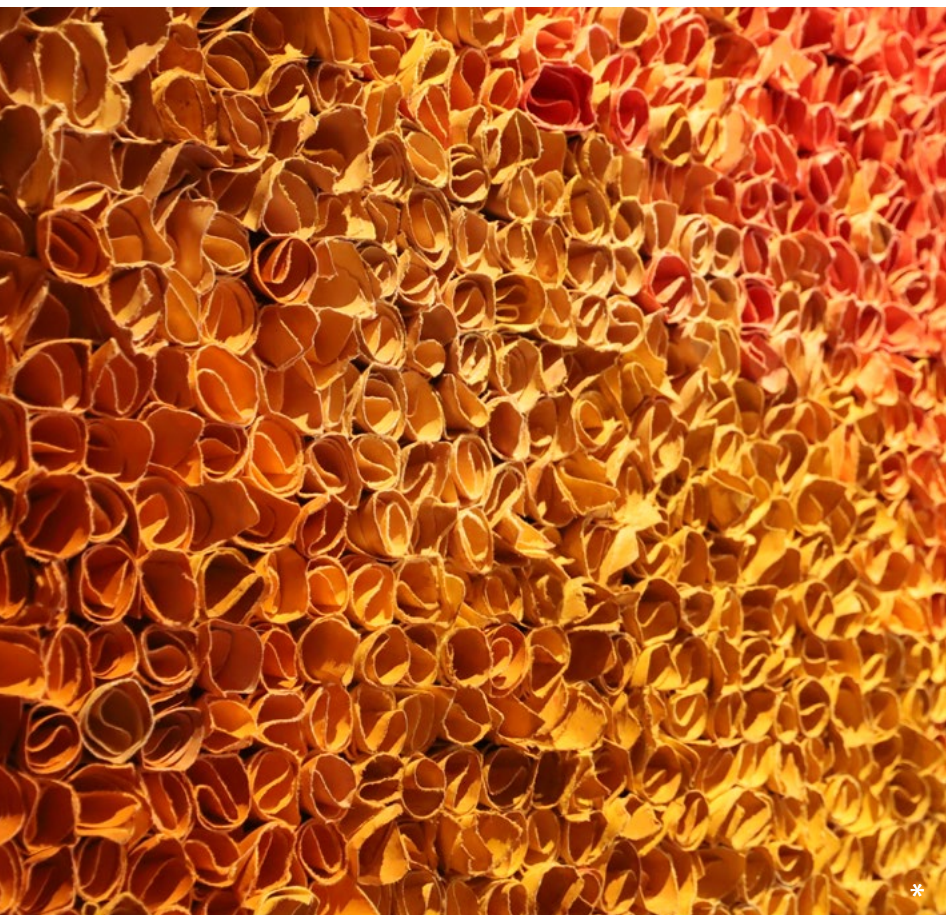
19F Main Dining [IÑAKI]

19階のメイン・ダイニング「IÑAKI」は、バスク料理と芸術が対話する空間構成となっています。エレベーター・ホールに並ぶ、バスク地方のヴィンテージ・プレートが、「美食体験を彩る序章」となってゲストを迎え入れ、店内へと歩を進めると、篠崎恵（しのぎき・めぐみ）率いる edenworks による、春夏と秋冬の風景を表現した鮮やかな花々と植栽のインスタレーションが宙に浮かび、空間を華やかに彩ります。





個室空間には、無数の和紙の花で象ったモザイク状の色彩のインスタレーションが広がり、「アートが奏でる、五感を通じた美食体験」を提供しています。





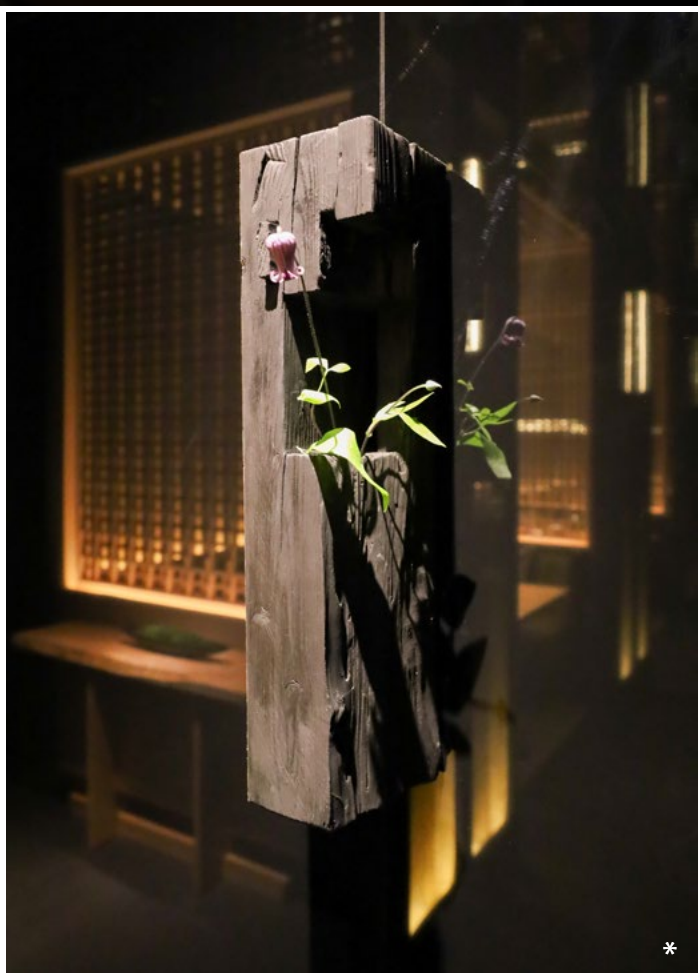
19F Teppanyaki Restaurant [BARIN]

鉄板焼き専門店の「馬蘭 BARIN」では、IC4DESIGN による、襖絵をモチーフにした壁画が空間を彩り、日本の伝統的な絵巻物様式を用いて、難波宮から大阪城、そして現代へ至る都市の変容の物語が、時空間に沿って、精緻に描かれています。



カウンター上部の一輪挿しは、八田亨による作品。製造過程で生まれた自然なひび割れをそのままに、花器に見立てることで、日本の美意識を体現した作品です。日本料理をめぐる文化的背景を視覚的に表現し、五感で楽しむダイニング体験へとゲストを導いています。

*



*

2F Meeting Room [KIRI]

2階ミーティング・ルーム「桐」は、サステナビリティの理念と地域文化の融合を体現する多彩なアートが設置された空間です。空間全体の「STIMULATE (刺激する)」というコンセプトに合わせ、地元・大阪を象徴する素材をアップサイクルし、随所に配置しました。ハイライトのひとつは、2023年に休刊した『大阪日日新聞』やマンガ雑誌をシュレッターで裁断し再構成したモザイク状の壁面レリーフ作品。日本の大衆文化が生み出してきた熱狂的なパワーと持続可能な社会の実現への願いを表現しています。



後智仁（うしろ・ともひと）による絵画《MATSUTAKAZU》は、大阪城の襖絵を現代的に再解釈した作品で、中央の赤が難波宮を象徴し、この地の歴史を表現しています。





成田久（なりた・ひさし）による立体コラージュ作品では、大阪府の伝統工芸品である「堺五月鯉幟」と着物が壁面を華やかに彩り、それぞれ異なる縫製の技法を用いて、黒と赤、強さと柔らかさの対比を演出しています。





3F Chapel & Bridal

3階のチャペル&ブライダル・エリアは、自然素材の美しさを活かし、自然への敬意を表現に昇華させた神聖な空間です。個室に設営された壁面レリーフ作品は、大阪城周辺に咲く四季折々の花々を純白の陶板に象嵌したもので、移ろいゆく四季の美の記憶を、アート作品の中に留めています。



別のシリーズでは、花々を押し花として保存し、時間の経過とともに色が変わっていく「侘び寂び」の美学を表現。柔らかな光を受けて、ブライダル空間にふさわしい清楚な美学を、静かに表現しています。



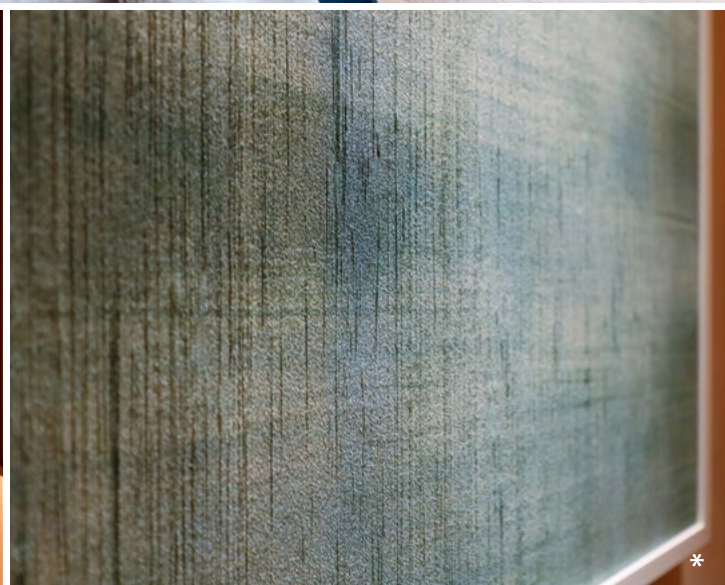


4F Wellness

4階のウェルネス・エリアには、自然と癒しをテーマにしたアートが配置されています。円形の苔は、外庭や廊下と連続するように、「自然との調和」を象徴し、訪れるゲストを、穏やかな気持ちへと導きます。

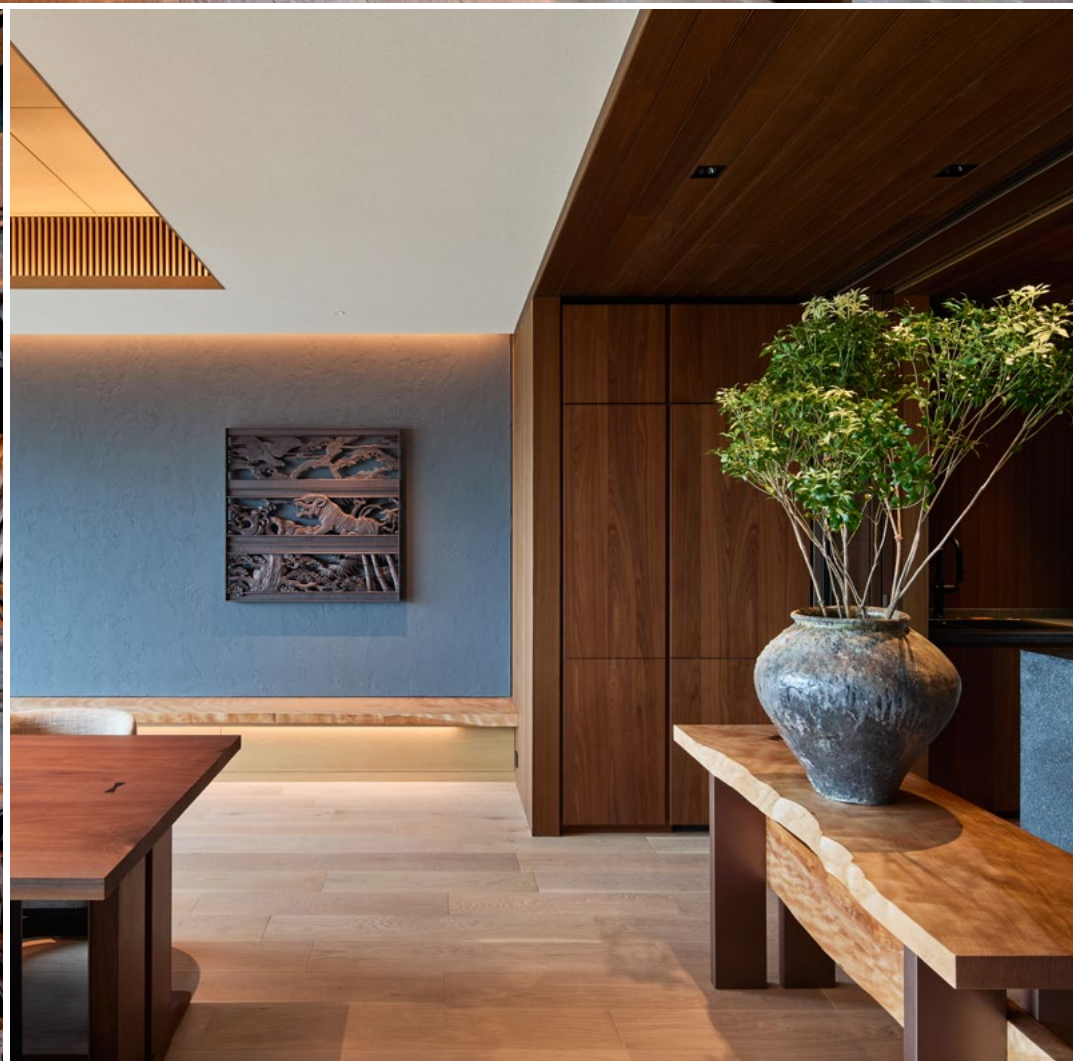


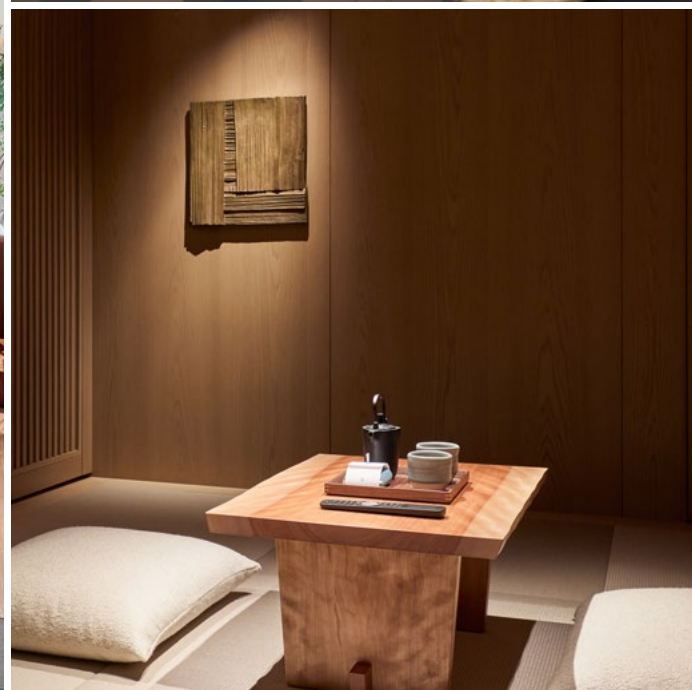
サステナビリティの追求と地域文化の継承の観点にもとづき、地元・大阪のアップサイクル企業と協働して製作した「再生糸」を用いた作品では、数百万本の糸を「PATINA」のブランドカラーである緑色の天然染料で染めあげました。その糸で織ったテキスタイルが、まるで抽象絵画のように、スパ空間にふさわしい、穏やかで柔らかな水平線からなるコンポジションを描いています。

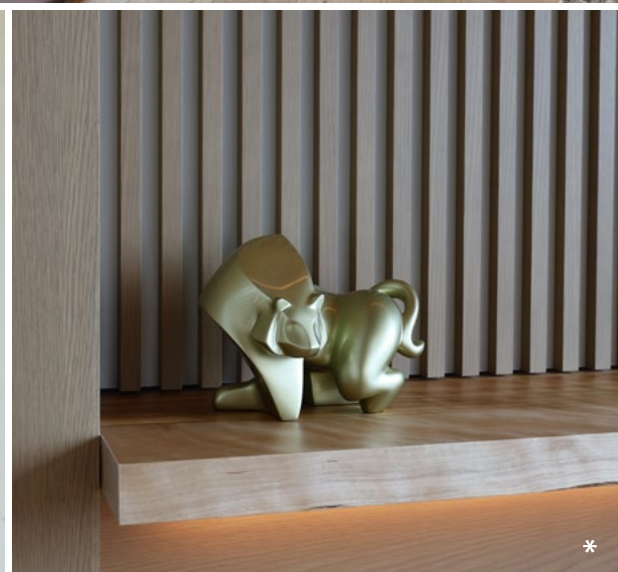


Guest Rooms

ゲストルームは、大阪城と難波宮という二つの歴史的文脈を反映した芸術空間としてデザインしました。客室内には大阪城の外壁レリーフ「伏虎(ふくこ)」を立体化した躍動感あるトラのオブジェを設置し、今にも動き出しそうな臨場感を与えています。

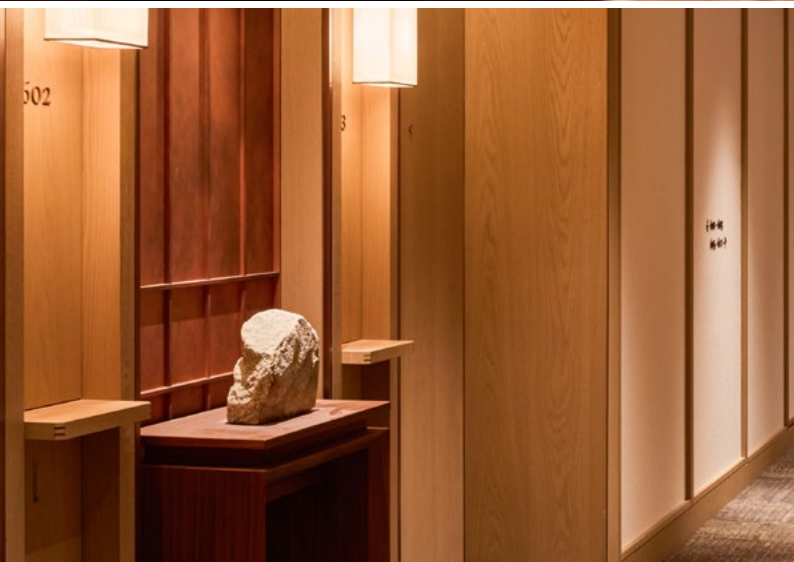








客室フロアの通路にも同じように、大阪城側に庵治石、
難波宮側には飛鳥時代の埋蔵物を想起させる大阪の焼き物を配置しています。



物件名
パティナー大阪
PATINA OSAKA

所在地
大阪府大阪市中央区

開業
2025 年 5 月

事業主
NTT 都市開発株式会社

インテリア設計・アート監修
株式会社ストリックランド

ICA ワークスコープ
Consultancy: Artwork Proposal & Planning.
Management & Design Production: Design, Fabrication,
Production Management, Setting & Installation.

Photographs
500G Inc.; Forward Stroke inc. (P. 1 and P. 2 top); Interculture Art
Inc. (*).

© Interculture Art Inc. All Rights Reserved.

About Us

有限会社インターカルチャーアート

Interculture Art Inc. (ICA)

当社は、「アートと空間との調和（Interculturality）は、私たちの生活を豊かにし、創造力と空間のストーリーは、私たちの心の中で生きつづける」という信念のもと、1994年、東京にて設立されました。コンサルティング、アート、デザイン、制作・施工などを専門とするスペシャリスト集団によって構成されています。創業以来の事業展開をとおして、ホテル、レジデンス、医療・福祉施設、商業プロジェクト施設、都市再開発計画などにおいて、多角的かつ総合的なアート・コンサルティングを提供するビジネス・スキームを確立し、多数のプロジェクト実績を重ねてまいりました。

当社では、それぞれのプロジェクトや空間の独自性（ユニークネス）を重視し、お客様のご要望やご予算に合わせ、納期などの諸条件を満たしながら、最適なアート・プログラムをご提案し、創造力と革新性によって、実現させます。

Our Philosophy

*"Interculturality between art and culture,
or the fusion of art with space,
creates our bountiful life.
Creativity and the stories we weave within spaces
continue to live in our minds, resonating far into the future."*

本社所在地

162-0041

東京都新宿区早稲田鶴巻町560-2 ICAビル

<https://intercultureart.com>

お問い合わせ

Contact Us / For Domestic and International Inquiries

e: inquiry@intercultureart.com

t: +81(0)3-3207-3911